

| | |
|-------------|---|
| Title | 表紙・投稿規定・プレプリント・編集後記・裏表紙ほか |
| Author(s) | |
| Citation | 物性研究 (1977), 28(6): 189-194 |
| Issue Date | 1977-09-20 |
| URL | http://hdl.handle.net/2433/89394 |
| Right | |
| Type | Others |
| Textversion | publisher |

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和52年9月20日発行(毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第28卷 第6号

vol. 28 no. 6

物性研究

1977 / 9

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、プレプリント案内、ニュースなどです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で private communication 扱いにしてください。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するために原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は Progress, Journal の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、o と a と 0 (ゼロ)、u と n と r、c と e、l (エル) と 1 (イチ)、x と × (カケル)、u と v 等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。1頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷は原則として作りません。どうしても別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を50部単位で申込んで下さい。別刷代は下記方式により、現金で納入していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷1頁の代金 3円

b : 製本代(別刷1部につき) 30円

別刷代 = (ap + b) x + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されません。

ニュース

東京大学 物性研

○ 談話会 (題目)

7月1日 「衝撃波技術を用いた超高压実験」 J. Ahrens 氏 (Caltech)

7月11日 「Mechanism of Absorption Edge Broadening in GaAs by
Piezoelectric Phonons」 R. Bray 氏 (Purdue Univ.)

7月15日 「Transverse Acoustic Impedance of Liquid Helium 3」
E. R. Dobbs 氏 (London Univ)

7月18日 「結晶塑性における超伝導効果」 鈴木 平氏 (物性研)

○ セミナー (題目)

7月2日 「反強磁性金属に対する磁場効果」
宇佐美 寛 氏 (物性研)

7月9日 「Second Order Resonance Processes in Rapidly Relaxing Systems」
V. Hizhnyakov 氏 (Institute of Physics, Estonian Academy of Science USSR)

名古屋大学

○ 講演会

7月14日 “Some Examples of Surface Properties Studied by Acoustic Methods”
The Norwegian Institute of Technology, Prof. K. J. Fosheim

7月15日 “The Brillouin Scattering of Reflected Light From Bulk Phonon - Induced
Surface Ripples” Purdue Univ., Prof. R. Bray

○ 談話会

7月18日 “超微粒子あれこれ” 名大・理 和田伸彦氏

7月19日 “ソリトンの話題” 名大・理 児玉裕治氏

8月2日 “On the Deviation from Mathiessen Rule”
State Univ. of New York, Prof. S. Fujita

ニュース

岡山大学

○ 談話会 (題目)

7月26日 “What and why is a multi-critical point ? ”

(コーネル大学) Professor M. E. Fisher

プレプリント案内

[東京大学・理学部・物理・久保研究室]

- (58) 2. Motohiko Saitoh and Takayuki Aoki
Theory of Hot Electrons on the Liquid ^4He Surface
- (59) 4. Hiroo Totsuji
Numerical Experiment on Two-Dimensional Electron Liquids – Thermodynamic Properties and Onset of Short-Range Order –
- (60) 4 Masami Kusunoki
The Quantum Theory of Transient Resonance Raman Scattering including Light Source and Observation Process
- (61) 5. Mikio Sato, Tetsuji Miwa and Michio Jimbo
Studies on Holonomic Quantum Fields. II, III
- (62) 5. Mikio Sato, Tetsuji Miwa and Michio Jimbo
Field theory of the 2-dimensional Ising model in the scaling limit
- (63) 6. Rolf Landauer
The Role of Fluctuations in Multistable Systems and in the Transition to Multistable Systems and in the Transition to Multistability
- (64) 9. Hiromasa Hirakawa and Kimio Tsubono
Search for Gravitational Radiation from the Crab Pulsar
- (65) 9. T. R. Koehler and P. A. Lee
Molecular Dynamics Studies of a One-Dimensional Complex Order Parameter Model
- (66) 9. Hideo Yahata
Dynamics of the Taylor Vortices above Higher Instability Points
- (67) 11. H. A. Mook, G. Shirane and S. M. Shapiro
A Reexamination of the Inelastic Neutron Scattering in Tetrathiafulvalene-Tetracyanoquinodimethane (TTF-TCNQ)
- (68) 11. D. Semmingsen, W. D. Ellenson, B. C. Frazer and G. Shirance
A Neutron Scattering Study of the Ferroelectric Phase Transition in CsD_2PO_4
- (69) 11. G. Shirance
The Verwey Transition in Magnetite

- (70) 11. Junjiro Kanamori and Yoshiro Kakehashi
Conditions for the Existence of Ordered Structure in Binary Alloy Systems
- (71) 19. Kazuo Nakanishi and Hiroyuki Shiba
Domain-like Incommensurate Charge-Density-Wave States and the First-Order Incommensurate-Commensurate Transitions in Layered Tantalum Dechlorogenides
- (72) 19. Kazuo Nakanishi, Horoshi Takatera, Yasusada Yamada and Hiroyuki Shiba
The Nearly Commensurate Phase and Effect of Harmonics on the Successive Phase Transition
- (73) 19. T. M. K. Davison
The Definition of Quadratic Forms
- (74) 22. Kyozi Kawasaki
Growth of Fluctuations in Quenched Time= dependent Ginzburg-Landau Model Systems
- (75) 25. Annette Zippelius and W. Götze
A Kinetic Theory for the Coherent Scattering Function $S(q, \omega)$ of Classical Liquids.
- (76) 25. Rapport D'Activite Scientifique du CECAM 1975-1976
- (77) 29. M. Wadati, H. Matsumoto, Y. Takahashi and H. Umezawa
General Theory of Dislocation
- (78) 29. M. Wadati, H. Matsumoto, Y. Takahashi and H. Umezawa
A Self-Consistent Field Theory of Crystals
- (79) 30. Kazuko T. Mashiyama and Hazime Mori
Origin of the Landau-Lifshitz Hydrodynamic Fluctuations in Nonequilibrium Systems and a New Method for Reducing the Boltzmann Equation

[京都大学・基礎物理学研究所]

Ponomarev L. I., Faifman M. P.

Calculation of the Hydrogen μ -Mesic Molecule De-excitation Rates

Gavrilenko G. M., Morosova S. K., Fedyanin V. K.

Evolution of the Vacancy Concentration in Ising Magnetics. I. Quasichemical Approximation

Serdyukova S. I.

The V. V. Rusanov Scheme. Investigation of Stability in Uniform Metrics. Asymptotic Expansion in the Vicinity of Isolated Discontinuity

Andert K. et al.

Experimental Study of the Structure of Mu-Mesic X-Ray Radiation Spectra in Chemical Compounds N, S and C Atoms

Evseev V. S. et al.

Investigation of the Structure of Mu-Mesic X-Ray Radiation Spectra of C and P in Various Compounds

Rangelov I. M.

Structure Transition Effect of the Superconducting Properties of Metals

編 集 後 記

この夏は、ニュージーランド沖のネッシー(?)、中性子爆弾、有珠山爆発、異常気象、……と、なんとなく科学者がマスコミによく呼び出され登場したような気がします。

ネッシーの場合など、「恐竜の可能性は少ない」と聞こえる言い方をすれば、その学者にあたかも責任があるような勢いでうらまれたり、「勇気がない」と馬鹿にされたりで、あまりこういう所へ引っぱり出される機会のない我々の分野からみれば、気の毒なかぎりです。そういえば何年か前の「超能力ブーム」の時もそうでした。例の「スプーンまげ」に対しては、物性論的測定をやる人も現われましたから、我々もまんざら無関係でなかったかもしれませんが、ああいう「現象」(あるいは「事実」)を認めたがらない、ということで、やれ保守的だ、体制的だ、これだから日本の科学は……と、ずいぶんコケにされたものです。(立派な肩書を持った学者も何人かは、まじめに登場されていました。その人たちのその後、というのをテレビでやってほしい、という意地悪心も起ろうというもの)。

もっとも「勇気がない」「慎重すぎる」という非難は案外当たっているような気もします。特に若手の方々には、「誰がみても非のうちどころのない論文」にするまでに、もっと、あれやこれやと考えていらっしゃることを、本誌に投稿していただきたいものです。ネッシーをコマーシャルに使うのは、やはりマスコミずれしてしまった証拠でしょうか?(H. T.)

物 性 研 究

第 28 卷 第 6 号

1977年9月20日発行

発行人 長 岡 洋 介
京都市左京区北白川追分町
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

印刷所 昭 和 堂 印 刷 所
京都市上京区上長者町室町西入
TEL (441) 1659 (431) 4789

発行所 物性研究刊行会
京都市左京区北白川追分町
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

講読規定

個人講読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっています。したがって、3月
末までになるだけ1年間分会費を御支払い下さい。
なお新規講読の場合は下記の会費以外に入会金として、
100円お支払い下さい。

1年間の会費

| | |
|-------------|----------|
| 1 st volume | 2,340円 |
| 2 nd volume | 2,340円 |
| | 計 4,680円 |

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分
ずつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下
さい。
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購
読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由な
く2 Vols.以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止する
ことになっていますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人購読中に大学等で一括配布を受
けるようになった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」
の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等送本先が変わった場
合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関購読

1. 会費：学校・研究所等での購読及び個人であっても公費払い
のときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol. **4,380円**、1冊
730円です。この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会
費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる
時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知
らせ下さい。
なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴
校、貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡：発行途上にある volume の購読途中
中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐ
らいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。

物 性 研 究 28—6 (9月号)

| | | |
|--------------------------|-----------|-----|
| ○パルス核磁気共鳴法による円管流の観測..... | 福田耕治..... | 169 |
| ○ニュース..... | | 189 |
| ○プレプリント案内..... | | 191 |
| ○編集後記..... | | 194 |
| ○研究会報告 | | |
| 「量子固体」..... | | F 1 |

物 性 研 究 28—6 (9月号)

| | | |
|--------------------------|-----------|-----|
| ○パルス核磁気共鳴法による円管流の観測..... | 福田耕治..... | 169 |
| ○ニュース..... | | 189 |
| ○プレプリント案内..... | | 191 |
| ○編集後記..... | | 194 |
| ○研究会報告 | | |
| 「量子固体」..... | | F 1 |